

野のはな



「強く、優しく」

学院長・学長 柏木 哲夫

「野のはな」会員の皆様、お元気ですか。いつも母校のために祈って下さっていますことを感謝いたします。学院は2009年に120周年を迎えます。そのための準備を少しずつ進めています。大学も厳しい私学の状況の中、今年も十分な学生が与えられ、有り難いことだと感謝しています。

大学では数年前から教育のスローガン作りに取り組んできました。本学がどのような女性を世に送り出したいかを短い言葉で表現しようという試みです。すでにご存じの方も多いと思いますが、**強く 優しく。**と決まりました。この一年、このスローガンを内外に発信する努力をいたしました。その効果かもしれませんが、最近朝日新聞社から出た大学ランキングによりますと、本学の好感度が東海地方では名古屋大学に次いで二位でした。

これからの世の中において、女性の活躍はより一層期待されています。では、女性はその期待に応え、力を発揮するためには、何が大切なのでしょう。専門的な知識でしょうか。女性をサポートする社会システムでしょうか。もちろん、そのどちらも大切です。でも、ただ一つをと言われれば、それは「強さ」と「優しさ」ではないでしょうか。「強さ」は、主体性を持ってものごとを成し遂げ、学んだ広い知識を人生の場で活かせる強さ。そして「優しさ」は、まわりの人々の気持ちを理解し、いたわり思いやる優しさ。この2つをあわせ持つてはじめて、明日の社会に貢献できる女性になれるのではないのでしょうか。もしかすると、いままでは、強さだけに目を向けた世の中だったのかもしれませんが、しかし、それではこころの豊かさを失いかねません。そうならないためにも、「強さ」と「優しさ」は大切なのです。与えられた使命を果たす、それこそが女性に求められていることと思うのです。



「家政学部らしさ」

生活環境学部長 中森 千佳子

野のはなの会員の皆様にはいかがお過ごしでしょうか。

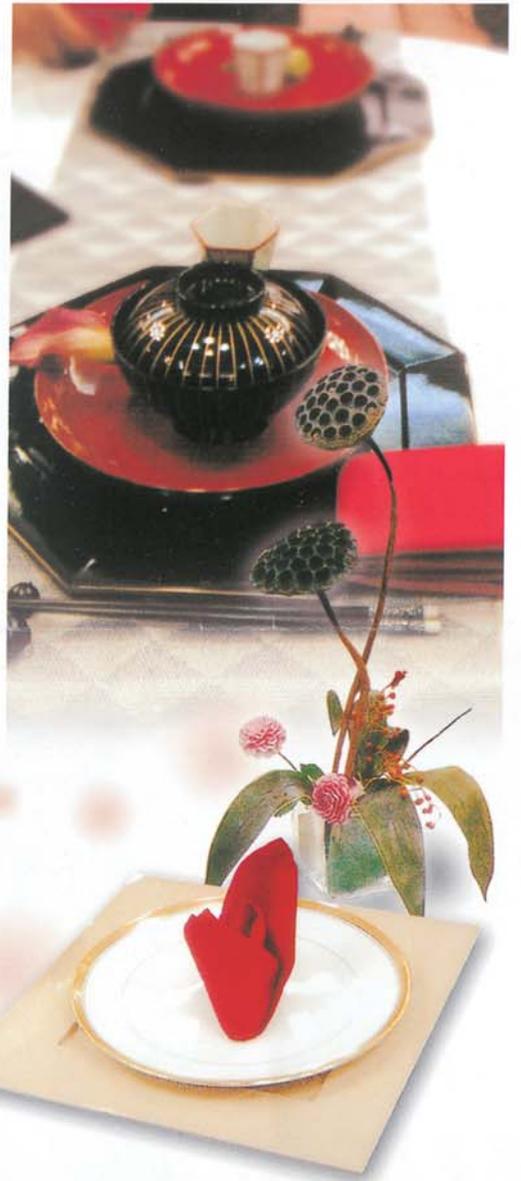
おかげさまで、生活環境学部は2007年度も定員を上回る入学生を確保することができました。これも皆様はじめ卒業生のご尽力の賜物と感謝しております。ご承知のように、これからの入試は「受験生が大学を選ぶ」時代へと変化しつつあります。したがって、他大学との違いをアピールする必要性がますます問われています。「金城らしさ」、「家政学部らしさ」を明確にし、その特徴を体現する学生の教育が問われているということです。大学全体としても、「金城らしさ」を「強く、優しく。」のスローガンで表現し、その具体的な内容を検討・実践しているところです。

では「家政学らしさ」とは何でしょうか。家政学を学んだ、特に本学で家政学を修めた学生の特徴はあるのでしょうか。2005年度人間生活学研究科修士論文において、みどり野会と野のはなのご協力を得て実施した調査(家政学部全卒業生の12.8%対象)では、家政学部卒業生の特徴がみられました。「家庭」「地域」の立場から日常生活に目を向け、自分の身の回りから生活をよくして行こうとする意識や行動です。しかし、決して狭い視野でなく、身近なところからできることを実行していく強さと優しさが感じられました。地球環境への配慮や、さまざまなつながりの中で多面的に生活を考えている点も家政学部卒業生の特徴です。これらは、まさに「家政学」の目的そのものといえます。ただし、「金城らしさ」と「家政学部らしさ」は一体で、なかなか分離するのは難しいのも事実です。

家族や家庭をめぐる問題が顕在している昨今、人間の生活の中核に視点を置いて、家庭、地域、ひいては人類の福祉に貢献できる人材養成は、家政学ならではのものです。自分の生活と地域、地球とを一直線に結ぶことができる教育を、生活環境学部としてこれからも誇りをもって取り組んで行く所存です。

同窓会

「野のはな」第6回総会



今年の総会では、金城学院高等学校の相澤幸子先生(家政学科3年生)と同窓生の服部先生、祖父江先生をお招きしてテーブルコーディネート講習をしていただきました。

まず始めに相澤先生より、ナプキンをクラウン型に作成する折り方を、各々が手元で折りながら習いました。折り方の説明図を一目見ただけでは理解しにくい箇所も、先生の折り進める実物を見ながら説明を受けるとよくわかり、簡単に作り上げることができました。

その後、雑誌「婦人画報」等でご活躍されている服部・祖父江両先生のご指導によるテーブルコーディネートの実践をいたしました。

先生方が用意して下さった食器や花器、花材、クロス類等を使用して、クリスマス・正月・ひな祭りのテーマに分かれ、四〜五人一組でテーブルセッティングいたしました。

参加者全員が実践できるように前半・後半の2回行われ、後半では来賓の方々もご参加下さいました。

それぞれのテーブルが素敵に仕上がっていました。先生方がテーブルを回って説明して下さいながらお手直しされると一段とすつきりまとまり、皆感心いたしました。

最後に、先生方が最優秀コーディネートを選ばれ、作成された方々にはご褒美の記念品が戴けました。

盛況の中、和気あいあいと楽しい雰

囲気は、そのままティーパーティーへと引き継がれました。



- 日 時 2006年10月28日(土) 午後1時～
- 場 所 金城学院大学E-3号館(教育情報棟)1Fラウンジ
- 出席者 86名

「野のはな」基金設立

会長 平林 怜子



本同窓会では、前年度からの課題であります「野のはな」の絆を発展していくため、母体である生活環境学部の学生を対象に、今年度から「野のはな」基金を設けることになりました。

具体的には、在学中に学力優秀な学生3名(各学科1名)に対して卒業時に授与する「野のはな賞」と、経済的な事情により就学が困難な学生に授与する「野のはな奨学金」によって、学生時代の勉学を側面から支援し、同時に同窓会「野のはな」の認知度を高め親しみ

をもってもらい、生活環境学部のさらなる発展向上に寄与することを目的としています。

尚、第7回「野のはな」総会には、会員の皆様の一人でも多くの参加をお待ちしています。

卒業生訪問 海外生活 体験記

1988年8月～1991年11月

フランス滞在

「南仏プロヴァンスへ！」

●家政学科3回生 榊原 敦子

「十年一昔」と言いますが、二昔も前の話で恐縮です。1988年、住民票の抹消、国民年金の処理、教育委員会へ転出の手続き等々を済ませて南仏のカンヌ



へ出発。日本からは最寄のニース空港まで約15時間のフライト。カンヌ映画祭が開かれる華やかな街です。気候は地中海に面し穏やか。しかし年に3～4回はミストラルと呼ばれる台風並の強風が吹く。

夫は数カ月前に赴任していましたがまだアパートも決まっておらず不動産屋めぐりの日々。築150年位の古き良きフランス的な住まいから近代的なものまで色々見ることが出来良い経験だった。「滑り込みセーフ」という感じで住まいの決定と娘の学校の新学期が始まった。フランス語も分からないまま現地校「リセ・サンマリー」の6年生に編入。

学校は高い土塀に囲まれ登下校の時間だけ小さな門が開かれるというもので普段は中の様子も伺うことが出来ない。しばらくは緊張の連続。子も親も。現地校に慣れてゆくのはゆっくり一歩一歩だった。

今日この頃のようにインターネットで世界中の事柄がリアルタイムでという時代ではなかったので日本の情報源は夫が会社から持ち帰る一週間遅れの新聞だった。あれほど新聞の隅から隅まで興味を持って読んだ時期は後にも先にもない。当時ベルリンの壁が崩壊し、昭和から平成に、また湾岸戦争勃発と大きく世界が動いた。

渡仏3ヶ月程して中古のルノー・サンクを手に入れてからは学校の送迎、水などの重い買い物はもちろん、行動範囲もぐーんと広がった。運転のルールは無秩序のようで秩序があり慣れれば快適であった。

一般的に治安が悪い、失業率が高いといわれながらも私たちの周りにいたフランス人達はユーモアがあり親切で何よりも生きることを楽しんでいるように見えた。親しい人とおしゃべりを楽しみ真夜中まで続く事もあるホームパーティを何度か経験した。

おかげ様で心と体の健康に恵まれ多くの印象派の画家が見たのと同じ燦々と降り注ぐ光と風の中に生活出来たことは本当に幸運であった。



2004年4月～2006年12月チェコ滞在

●家政学科6回生 小林 ひで子

主人の赴任先はチェコ。私にとって初めての海外生活。私達二人の第二の新婚生活はHavlickuv Brod、人口25,000人。首都プラハから120km離れた町で“工場立ち上げ”という仕事が主人を待っていました。

そこでは私は初めての日本人女性。チェコスロバキアという名前しか知らず、二つの国に分かれ4カ国に囲まれている事も知らず、英語を話す人も殆んどいない町。初めて耳にするチェコ語。英語を介してのレッスンが始まりました。本当に難しかった。3年在住と云うと、チェコ語ペラペラと思うかも知れないけれど、とんでもない!!苦悩の毎日でした。自分の意思が伝えられるようになったのは2年くらい経ってからでした。



冬の1月・2月は雪の季節。家の前の歩道で人が滑って怪我をすると住人の責任なので、毎日塩をまいたり雪かきしたり。幸いなことに軽い雪なので私にも出来ました。1時間もすると汗が出て来ます。朝の忙しい時、雪に車がはまって動けないと隣人が出て来て手伝って下さったり、昔懐かしい気持ちの持ち主達でした。



私の一日の生活は主婦。日本食好きな主人の為に、日本からの訪問客には日本食材を運んでもらいました。町には食材がなく、プラハでも日本の3倍高い!チェコ人は、内臓・豚の脂身などを食べる習慣があるので助かりましたが、魚は冷凍の鰯・鯖・サーモン。チェコの食材を使っての毎日でした。こうした生活が3年弱、のんびりした景色とゆったりと流れる時間。誰にでも挨拶し、年寄りを大切にする習慣。もう少し長く住みたかったと思う良き体験でした。

2007年度 総会のご案内

ビュッフェ形式によるランチパーティーと講演会・布花ブーケ作り

日時 2007年10月27日(土) 11:00～(受付 10:30)

場所 金城学院大学E-3号館(教育情報棟) 1Fラウンジ

会費 1,000円(当日徴収)

●講演会 講師
前生活環境学部長 藤城 榮一 教授
演題:「教員生活をふりかえって」

●ランチパーティー
ヒューマンテーブルカンパニー

●布花作り 講師
住田 多加世 先生

●藤城 榮一 教授のプロフィール

1967年3月 東北大学大学院工学研究科修士課程建築学専攻 修了

1967年4月～1976年3月 東北大学工学部建築学科 助手

1967年4月 金城学院大学家政学部 助教授

1989年4月 同 教授

2002年4月 金城学院大学生生活環境学部 教授

2007年3月 依願退職

現在は、金城学院大学及び名古屋女子大学非常勤講師としてご活躍されています。

●住田 多加世 先生のプロフィール

山上の女史に師事され、朝日カルチャー講師、NHK岐阜放送センター講師等。

一枚の布に生命を与え高級感のある花を制作します。本絹をカットし、染料でアンティークな色に着色した布を手縫りで優しいコサージュとして、胸元を飾って頂けると幸いです。



クラス会便り

●家政学部家政学科 第5回生 B組クラス会

2007年6月9日(土) ホテルキャッスルプラザにて

朝から大降りの雨だったのですが、私達のパワーに天気も負けたのか、帰る時には雨もやみ、少人数でもとても楽しい会になりました。

来年からは年1回、6月の第1土曜日にクラス会を開催します。



●家政学部家政学科 第19回生 B組クラス会

2007年6月23日(土) 名古屋マリOTTアソシアホテルにて

2007年6月23日名古屋マリOTTアソシアホテル華雲にて、23回目となるクラス会が開催されました。12名の出席者が20数年前の学生時代にもどって、時間が経つのも忘れ楽しい時を過ごしました。

来年度は6月28日(土)の予定です。



2006年度 会計報告書

2005.10.1～
2006.9.30

2006年10月6日

お手元の会報をご確認下さい。

お願い

総会のご案内および会報誌は、終身会費納入済みの正会員様のみに送付させて頂いております。お知り合いの中に未納の方がいましたら、下記宛ご送金頂き、正会員になって頂くようご案内下さい。尚、必ず旧姓・在籍学科・卒業年度または生年月日のご記入をお願い致します。

郵便振り込み 00880-6-111746

金城学院大学同窓会「野のはな」宛 金額/10,000円

〒461-0011 名古屋市東区白壁4-64 みどり野会館内
「野のはな」事務局 tel.(052)931-4480

編集後記

今回よりカラー印刷にさせて頂きました。会員相互の親睦を深める会報として、ご意見、ご希望、自薦・他薦の情報を多数お待ちしております。発刊にあたり、ご協力頂いた皆様には深く感謝申し上げます。

広報部一同